



2018年6月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年8月3日
東

上場会社名 株式会社アイスタイル 上場取引所
 コード番号 3660 URL <http://www.istyle.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉松 徹郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 菅原 敬 (TEL) 03(5575)1260
 定時株主総会開催予定日 2018年9月26日 配当支払開始予定日 2018年9月27日
 有価証券報告書提出予定日 2018年9月27日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2018年6月期の連結業績(2017年7月1日~2018年6月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年6月期	28,470	50.7	2,125	45.0	2,147	65.3	1,184	10.0
2017年6月期	18,888	32.2	1,465	△16.3	1,299	△21.6	1,076	△15.5

(注) 包括利益 2018年6月期 650百万円(△53.9%) 2017年6月期 1,409百万円(18.1%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
2018年6月期	円 銭 18.62	円 銭 17.12	% 10.6	% 10.7	% 7.5
2017年6月期	円 銭 18.51	円 銭 17.79	% 13.1	% 9.3	% 7.8

(参考) 持分法投資損益 2018年6月期 △6百万円 2017年6月期 △111百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2018年6月期	百万円 21,911	百万円 12,008	% 53.0	円 銭 180.65
2017年6月期	百万円 18,141	百万円 11,013	% 59.4	円 銭 170.61

(参考) 自己資本 2018年6月期 11,604百万円 2017年6月期 10,772百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
2018年6月期	百万円 1,750	百万円 △3,779	百万円 1,877	百万円 5,985
2017年6月期	百万円 637	百万円 △3,271	百万円 5,505	百万円 6,169

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2017年6月期	円 銭 -	円 銭 0.00	円 銭 -	円 銭 0.50	円 銭 0.50	百万円 32	% 2.7	% 0.4
2018年6月期	円 銭 -	円 銭 0.00	円 銭 -	円 銭 0.50	円 銭 0.50	百万円 32	% 2.7	% 0.3
2019年6月期 (予想)	円 銭 -	円 銭 0.00	円 銭 -	円 銭 0.00	円 銭 0.00		% -	% -

(注) 2018年6月期期末配当金の内訳 普通配当 0円50銭

3. 2019年6月期の連結業績予想(2018年7月1日~2019年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	36,100	26.8	1,800	△15.3	1,735	△19.2	925	△21.8	14.39

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
 新規 -社（社名）- 、除外 -社（社名）-

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は添付資料13ページ「3. 連結財務諸表及び主な注記 (5) 連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年6月期	66,927,600株	2017年6月期	65,852,400株
② 期末自己株式数	2018年6月期	2,693,452株	2017年6月期	2,709,806株
③ 期中平均株式数	2018年6月期	63,577,908株	2017年6月期	58,131,206株

(参考) 個別業績の概要

1. 2018年6月期の個別業績（2017年7月1日～2018年6月30日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年6月期	6,244	20.4	599	△17.0	618	△22.1	398	△46.7
2017年6月期	5,188	13.4	722	△9.9	794	△1.9	748	40.4
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2018年6月期	6.26		5.76					
2017年6月期	12.86		12.36					

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
2018年6月期	17,987		9,529		52.6	147.20		
2017年6月期	14,834		8,999		60.2	141.33		

(参考) 自己資本 2018年6月期 9,455百万円 2017年6月期 8,924百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。
- ・当社は、2018年8月3日にアナリスト及び機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。

(日付の表示変更について)

2018年6月期第1四半期より、日付の表示を和暦から西暦へ変更しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(会計上の見積りの変更)	13
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	15

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当社グループは2016年8月3日発表の中期経営計画に基づき、当連結会計年度を選択と集中のフェーズと定めております。特にOn Platform事業における収益基盤の確立に注力し、当第4四半期連結会計期間にかねてより開発を進めておりました新サービスをリリースいたしました。これによる当期売上への影響は軽微であります。今後の収益の柱とすべく、第3四半期連結会計期間より当該サービスの営業に人的リソースを注力しております。

また、Beauty Service事業やGlobal事業等が大きく成長いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は次のとおりとなりました。

売上高	28,470百万円	(前年同期比	50.7%増)
営業利益	2,125百万円	(前年同期比	45.0%増)
経常利益	2,147百万円	(前年同期比	65.3%増)
税金等調整前四半期純利益	2,098百万円	(前年同期比	28.3%増) ※
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,184百万円	(前年同期比	10.0%増) ※

※前第3四半期連結会計期間において、投資有価証券の売却益として特別利益283百万円を計上しております。

① On Platform事業

当セグメントには、当社が運営する美容系総合ポータルサイト「@cosme（アットコスメ）」を基盤とした各種サービス（BtoB、BtoC）が属しております。

当連結会計年度におきましては、ブランディング広告やバナー広告、「ブランドファンクラブ」等の化粧品メーカー向けの既存サービスを中心に成長いたしました。なお、当第4四半期連結会計期間において、次の収益の柱とすべく新サービス「ブランドオフィシャル」をリリースし、第3四半期連結会計期間より当該サービスの営業へ戦略的に人的リソースを配分いたしました。これにより下期の収益の伸びは限定的となりましたが、当社主催のイベントの寄与もあり、通期業績におきましては前年同期比で増収増益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	7,335百万円	(前年同期比	7.2%増)
セグメント利益	2,645百万円	(前年同期比	3.7%増)

② Beauty Service事業

当セグメントには、化粧品ECサイト「@cosme shopping（アットコスメショッピング）」の運営、化粧品専門店「@cosme store（アットコスメストア）」の運営や、プライベートブランドの企画・開発・販売等の、国内における小売業を中心としたサービスが属しております。

ECにおきましては、「@cosme」からの送客を強化したことに加え、「@cosme」でランキング上位の商品やラグジュアリーブランドの取扱いを強化し、幅広い品揃えを実現することにより売上が好調に推移いたしました。

店舗におきましては、新規出店を抑制し既存店舗の収益性を強化したことにより、各店舗が成長し大きく増収増益となりました。当連結会計年度末の店舗数は、2店舗の新規開店と小型店1店舗の閉店により、25店舗（前年同期末24店舗）となりました。なお、第3四半期連結会計期間に新規開店した「ららぽーと富士見店」は、初の外資系ラグジュアリーブランドを多数含むチャネル横断型の店舗となっております。

以上の結果、当連結会計年度の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	12,142百万円	(前年同期比	38.2%増)
セグメント利益	621百万円	(前年同期比	171.2%増)

③ Global事業

当セグメントには、日本国外で展開するEC、店舗、メディア等のサービスが属しております。

中国における越境ECにおきましては、W11^{*1}という季節要因もあり上期の業績が当該セグメントを牽引いたしまし

た。また、当第4四半期連結会計期間において、韓国免税店への商品卸売を開始し「@cosme」のブランドを活用した化粧品売場のプロデュースを行いました。

店舗におきましては、第3四半期連結会計期間に台湾へ1店舗、当第4四半期連結会計期間に香港へ1店舗を新規出店し、当連結会計年度末の海外店舗数は台湾に4店舗（前年同期末3店舗）、香港に1店舗となりました。

第1四半期連結会計期間より損益計算書の連結を開始した海外企業3社^{*2}におきましては、引き続き、中長期的な事業の成長に向けた取り組みや効率化・合理化を進めております。

なお、当連結会計年度の3社に対するのれんの償却（約372百万円）を今期より開始したことにより赤字となりましたが、中国越境ECの躍進によって当初計画を上回って着地いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	7,646百万円（前年同期比 158.4%増）
セグメント損失	11百万円（前年同期 セグメント利益 133百万円）

※1 11月11日に中国で開催されるECの大規模なセール

※2 下記の3社

- ・Hermo Creative(M)Sdn. Bhd.（マレーシアで化粧品ECサイト「Hermo」を運営）
- ・i-TRUE Communications Inc.（台湾で化粧品レビューメディア「UrCosme」を運営）
- ・MUA Inc.（米国で化粧品レビューメディア「MakeupAlley」を運営）

④ その他事業

当セグメントには、美容部員等を派遣する人材派遣事業と、創業間もない企業も含め幅広い成長ステージの企業に投資する投資育成事業が属しております。

当連結会計年度におきましては、人材派遣事業が着実に成長したほか、投資育成事業において第1四半期及び第3四半期連結会計期間に営業投資有価証券の売却を行いました。なお、営業投資有価証券の売却は当該資産の市場価値等を鑑みて行われるため、経常的に行われるものではありません。

以上の結果、当連結会計年度の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	1,346百万円（前年同期比 342.2%増）
セグメント利益	436百万円（前年同期比 397百万円増）

(2) 当期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当連結会計年度末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ3,771百万円増加し21,911百万円となりました。

これは主に、流動資産において、受取手形及び売掛金425百万円、商品701百万円、並びに固定資産において、ソフトウェア798百万円、のれん1,327百万円等が増加したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ2,776百万円増加し9,904百万円となりました。

これは主に、流動負債において、支払手形及び買掛金358百万円、短期借入金1,800百万円、1年内返済予定の長期借入金149百万円、未払法人税等336百万円等が増加したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ994百万円増加し、12,008百万円となりました。

これは主に、その他有価証券評価差額金508百万円が減少したものの、利益剰余金1,235百万円が増加、並びに非支配株主持分165百万円が増加したこと等によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、前連結会計年度末に比べ184百万円減少し、残高は5,985百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況と要因は以下の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動の結果得られた資金は、1,750百万円(前年同期は637百万円の収入)であります。

この主な要因は、税金等調整前当期純利益の計上2,098百万円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動の結果使用された資金は、3,779百万円(前年同期は3,271百万円の支出)であります。

この主な要因は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,699百万円、無形固定資産の取得による支出1,208百万円、投資有価証券の取得による支出129百万円、有形固定資産の取得による支出329百万円、定期預金の預入による支出399百万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動の結果得られた資金は、1,877百万円(前年同期は5,505百万円の収入)であります。

この主な要因は、短期借入金の純増減額1,800百万円等があったことによるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2014年6月期	2015年6月期	2016年6月期	2017年6月期	2018年6月期
自己資本比率(%)	73.1	64.2	58.4	59.4	53.0
時価ベースの自己資本比率(%)	106.6	240.2	436.2	309.1	356.8
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	125.0	106.0	205.1	615.0	321.1
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	116.9	143.8	252.3	95.3	158.2

(注) 1. いずれも連結ベースの財務数値により計算しています。

(注) 2. 株式時価総額は、期末株式終値×期末発行済株式総数(自己株式数を除く)により算出しております。

(注) 3. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しています。

(注) 4. 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としています。

(4) 今後の見通し

2019年6月期におきましては、中期経営計画の達成に向けて、プラットフォームへの投資をより一層強化してまいります。ユーザーやブランドとのつながり等「@cosme」の価値を最大化し、サービス間の連携強化を促進したうえで、プラットフォームの価値向上並びに収益化を促進してまいります。

全体的な施策として、上期にユーザー向けの積極的なプロモーションを予定しており、ユーザーの増加並びに「@cosme」の利用頻度を上げ、サービス及びコンテンツへの接触率を高めてまいります。

On Platform事業におきましては、新サービス「ブランドオフィシャル」の営業へ更に注力し、下期からの本格的な収益化を目指してまいります。なお、前述のプロモーションによるユーザーの増加や、2019年6月期以降に予定しておりますECや店舗等の購買データとの連携により、サービス価値の向上を図ってまいります。

Beauty Service事業のECにおきましては、パーソナライズ化されたコンテンツにより、自分の好みにあったブランドや商品に接する機会をより多く提供してまいります。さらに、クチコミや掲載記事等から商品購入に至るまでの導線を強化することで、売上の増加を図ってまいります。国内の店舗におきましては、当期と同程度の新規出店を予定しており、並行して既存店舗の収益性も強化してまいります。

Global事業の中国越境ECにおきましては、引き続き卸売先を開拓する等、当セグメントにおける収益の柱として注力してまいります。海外の店舗におきましては、台湾及び香港における店舗数の拡大や、タイへの新規出店等を予定しており、アジアを中心に積極的な事業展開を行ってまいります。

来期の業績予想におきましては、各セグメントにおける着実な成長により増収を目指しますが、中長期的な戦略に基づき、プラットフォームへの投資や組織体制の強化を行うことにより、減益を見込んでおります。

以上の結果、2019年6月期連結業績予想は下記の通りとなります。

<2019年6月期連結業績予想>

売上高：	36,100百万円（前年同期比較 26.8%増）
営業利益：	1,800百万円（前年同期比較 15.3%減）
経常利益：	1,735百万円（前年同期比較 19.2%減）
親会社株主に帰属する当期純利益：	925百万円（前年同期比較 21.8%減）

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、今後につきましては、外国人株主比率の推移及び国内の同業他社の国際会計基準の適用動向等を踏まえ、国際会計基準の適用について検討を進めていく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年6月30日)	当連結会計年度 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,169	6,183
受取手形及び売掛金	2,282	2,707
商品	1,584	2,286
営業投資有価証券	1,629	999
短期貸付金	407	2
繰延税金資産	166	225
その他	343	900
貸倒引当金	△13	△12
投資損失引当金	-	△12
流動資産合計	12,567	13,278
固定資産		
有形固定資産		
建物	827	1,030
減価償却累計額	△152	△248
建物（純額）	675	783
その他	326	432
減価償却累計額	△177	△227
その他（純額）	149	206
有形固定資産合計	824	988
無形固定資産		
のれん	2,135	3,462
ソフトウェア	1,180	1,977
その他	116	190
無形固定資産合計	3,431	5,630
投資その他の資産		
投資有価証券	471	979
繰延税金資産	98	76
その他	751	960
投資その他の資産合計	1,320	2,015
固定資産合計	5,574	8,633
資産合計	18,141	21,911

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年6月30日)	当連結会計年度 (2018年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,258	1,617
短期借入金	-	1,800
1年内返済予定の長期借入金	1,162	1,312
未払金	440	650
未払法人税等	326	662
賞与引当金	173	236
繰延税金負債	258	27
その他	738	1,075
流動負債合計	4,356	7,378
固定負債		
長期借入金	2,756	2,505
その他	16	20
固定負債合計	2,772	2,525
負債合計	7,127	9,904
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,482	3,556
資本剰余金	3,417	3,513
利益剰余金	3,535	4,770
自己株式	△281	△280
株主資本合計	10,153	11,559
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	546	38
為替換算調整勘定	74	7
その他の包括利益累計額合計	620	44
新株予約権	75	74
非支配株主持分	165	330
純資産合計	11,013	12,008
負債純資産合計	18,141	21,911

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2016年7月1日 至 2017年6月30日)	当連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)
売上高	18,888	28,470
売上原価	8,852	14,783
売上総利益	10,036	13,686
販売費及び一般管理費	8,571	11,561
営業利益	1,465	2,125
営業外収益		
受取利息	3	2
為替差益	-	23
投資事業組合運用益	10	4
助成金収入	-	7
還付消費税等	5	1
その他	9	10
営業外収益合計	28	47
営業外費用		
支払利息	15	13
為替差損	24	-
株式交付費	32	-
持分法による投資損失	111	6
その他	12	5
営業外費用合計	194	24
経常利益	1,299	2,147
特別利益		
投資有価証券売却益	283	-
持分変動利益	88	-
特別利益合計	372	-
特別損失		
減損損失	32	44
投資有価証券評価損	2	-
その他	2	5
特別損失合計	36	49
税金等調整前当期純利益	1,635	2,098
法人税、住民税及び事業税	580	906
法人税等調整額	△24	△37
法人税等合計	556	869
当期純利益	1,079	1,229
非支配株主に帰属する当期純利益	3	46
親会社株主に帰属する当期純利益	1,076	1,184

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2016年7月1日 至 2017年6月30日)	当連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)
当期純利益	1,079	1,229
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	225	△437
為替換算調整勘定	33	△71
持分法適用会社に対する持分相当額	71	△71
その他の包括利益合計	329	△579
包括利益	1,409	650
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,405	608
非支配株主に係る包括利益	3	41

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2016年7月1日 至 2017年6月30日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	1,609	1,543	2,482	△281	5,353	249	41	290	39	7	5,690
当期変動額											
新株の発行	1,874	1,874			3,748						3,748
剰余金の配当			△29		△29						△29
親会社株主に帰属する当期純利益			1,076		1,076						1,076
自己株式の取得				△0	△0						△0
自己株式の処分					-						-
持分法の適用範囲の変動					-						-
連結子会社の決算期変更に伴う増減			5		5						5
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-	297	33	329	36	158	524
当期変動額合計	1,874	1,874	1,052	△0	4,800	297	33	329	36	158	5,324
当期末残高	3,482	3,417	3,535	△281	10,153	546	74	620	75	165	11,013

当連結会計年度(自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	3,482	3,417	3,535	△281	10,153	546	74	620	75	165	11,013
当期変動額											
新株の発行	73	73			147						147
剰余金の配当			△32		△32						△32
親会社株主に帰属する当期純利益			1,184		1,184						1,184
自己株式の取得				△0	△0						△0
自己株式の処分		22		2	24						24
持分法の適用範囲の変動			83		83						83
連結子会社の決算期変更に伴う増減					-						-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-	△508	△67	△575	△1	165	△412
当期変動額合計	73	96	1,235	2	1,406	△508	△67	△575	△1	165	994
当期末残高	3,556	3,513	4,770	△280	11,559	38	7	44	74	330	12,008

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2016年7月1日 至 2017年6月30日)	当連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,635	2,098
減価償却費	438	574
のれん償却額	59	400
減損損失	32	44
株式交付費	32	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△31	△1
投資損失引当金の増減額 (△は減少)	—	12
賞与引当金の増減額 (△は減少)	9	64
持分法による投資損益 (△は益)	111	6
受取利息	△3	△2
支払利息	15	13
為替差損益 (△は益)	11	△26
投資事業組合運用損益 (△は益)	△10	△4
投資有価証券評価損益 (△は益)	2	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	△283	—
持分変動損益 (△は益)	△88	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△538	△432
営業投資有価証券の増減額 (△は増加)	△239	△39
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△559	△694
仕入債務の増減額 (△は減少)	532	356
未払金の増減額 (△は減少)	12	169
その他	262	△226
小計	1,400	2,313
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	△16	△13
法人税等の支払額	△750	△552
営業活動によるキャッシュ・フロー	637	1,750
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△11	△129
有形固定資産の取得による支出	△423	△329
無形固定資産の取得による支出	△768	△1,208
差入保証金の差入による支出	△107	△167
定期預金の預入による支出	—	△399
定期預金の払戻による収入	—	197
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△2,024	△1,699
貸付けによる支出	△517	—
事業譲受による支出	△3	△9
投資有価証券の売却による収入	634	—
その他	△51	△35
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,271	△3,779

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2016年7月1日 至 2017年6月30日)	当連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△50	1,800
長期借入れによる収入	3,040	1,200
長期借入金の返済による支出	△1,182	△1,301
株式の発行による収入	3,731	135
配当金の支払額	△29	△32
非支配株主からの払込みによる収入	—	104
非支配株主への配当金の支払額	—	△12
自己株式の取得による支出	△0	△0
その他	△5	△17
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,505	1,877
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9	△32
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,863	△184
現金及び現金同等物の期首残高	3,321	6,169
連結子会社の決算期の変更による現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△14	—
現金及び現金同等物の期末残高	6,169	5,985

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号平成30年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等が公表日以後適用することができるようになったことに伴い、公表日以後実務対応報告第36号を適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については、「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号平成17年12月27日)等に準拠した会計処理を行うことといたしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの主な事業は化粧品関連事業であり、化粧品に関するクチコミサイト及び当該サイトを軸にしたOn Platform事業、Beauty Service事業、Global事業、その他事業を展開しております。したがって、当社グループは提供サービス及び取扱商品の区分により「On Platform事業」、「Beauty Service事業」、「Global事業」、「その他事業」の4つを報告セグメントとしております。

On Platform事業には、国内外でのマーケティング事業、プレミアム会員向けサービス等が属しております。

Beauty Service事業には、国内における化粧品ECサイトの運営、化粧品専門店「@cosme store」の運営等が属しております。

Global事業には、日本国外で展開するサービスが属しております。

その他事業には、美容部員等を派遣する人材派遣事業と、創業間もない企業も含め幅広い成長ステージの企業に投資する投資育成事業が属しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計基準に準拠した方法であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2016年7月1日 至 2017年6月30日)

	報告セグメント					調整額 (百万円)	連結損益計 算書計上額 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service事業 (百万円)	Global事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
外部顧客への売上高	6,840	8,784	2,959	304	18,888	—	18,888
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20	5	66	25	117	△117	—
計	6,860	8,789	3,026	330	19,004	△117	18,888
セグメント利益	2,551	229	133	39	2,952	△1,487	1,465
セグメント資産	2,816	3,556	5,278	1,765	13,415	4,726	18,141
その他項目							
減価償却費	311	75	8	—	395	43	438
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	701	331	42	—	1,074	159	1,233

- (注) 1. セグメント利益の調整額△1,487百万円は、セグメント間取引消去19百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,506百万円であります。
2. セグメント資産の調整額4,726百万円は、セグメント間取引消去△3,904百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産8,630百万円であります。
3. 減価償却費の調整額43百万円は、各報告セグメントに帰属しない管理部門に係るものであります。
4. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額159百万円は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。
5. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)

	報告セグメント					調整額 (百万円)	連結損益計 算書計上額 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service事業 (百万円)	Global事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
外部顧客への売上高	7,335	12,142	7,646	1,346	28,470	—	28,470
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18	92	35	13	158	△158	—
計	7,354	12,235	7,681	1,359	28,628	△158	28,470
セグメント利益又は損失 (△)	2,645	621	△11	436	3,691	△1,566	2,125
セグメント資産	3,898	4,443	9,276	1,482	19,099	2,812	21,911
その他項目							
減価償却費	397	79	50	—	526	48	574
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,206	151	214	—	1,571	20	1,591

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,566百万円は、セグメント間取引消去15百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,581百万円であります。
2. セグメント資産の調整額2,812百万円は、セグメント間取引消去△3,647百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産6,459百万円であります。
3. 減価償却費の調整額48百万円は、各報告セグメントに帰属しない管理部門に係るものであります。
4. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額20百万円は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。
5. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「Beauty Service事業」セグメントにおいて、閉店を決定した店舗および継続的に営業損失を計上している店舗資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を44百万円を計上しました。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間においてMUA Inc.の株式取得を行い、新たに連結子会社としたことにより「Global事業」セグメントにおいてのれんが1,692百万円増加しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 2016年7月1日 至 2017年6月30日)	当連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)
1株当たり純資産額	170.61円	180.65円
1株当たり当期純利益	18.51円	18.62円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	17.79円	17.12円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎

項目	前連結会計年度 (自 2016年7月1日 至 2017年6月30日)	当連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,076	1,184
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,076	1,184
普通株式の期中平均株式数(株)	58,131,206	63,577,908
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	2,351,040	5,542,941
(うち新株予約権)(株)	(2,351,040)	(5,542,941)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	新株予約権 6銘柄 潜在株式の数 11,984,000株	新株予約権 2銘柄 潜在株式の数 4,830,000株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。